

MIZUHO

瀬木学園だより

学校法人 瀬木学園

愛知みずほ大学・大学院

愛知みずほ短期大学

愛知みずほ大学瑞穂高等学校



March
2020

Vol.29

「足跡 MIZUHO」(学園) 1・2・3・4

「INFO MIZUHO」(短大) 5

「きらり☆MIZUHO」(高校) 5

「瑞想録」 5



創立80年の節目を迎えた学園は新たな歩みを始めています。歩みの先にある未来は、多様な価値観の存立やテクノロジーの目覚ましい進化に伴い、今まで以上に予測不能な世界です。とはいえ、それは、これまでの軌跡の先に開けた世界に違いありません。今までの確かな歩みが未来を創造していきます。その歩みを前号に引き続き特集としてご紹介します。

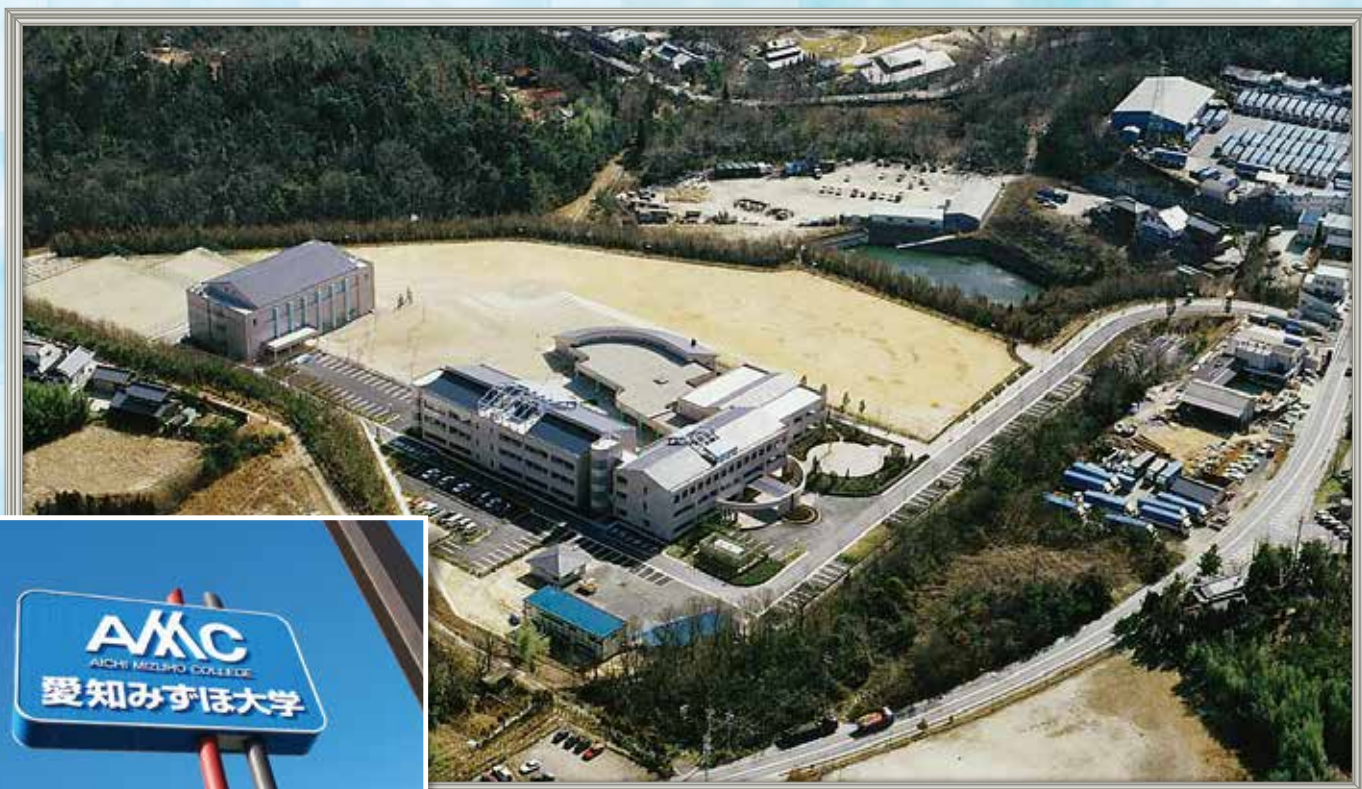


前号に続き、学園創立80周年の歩みをご紹介します。今回は「後編」として愛知みずほ大学開学後から現在までの軌跡をお伝えします。



大学開学

DATA



開学当時の大学全景
(豊田キャンパス)

開学の背景

平成5(1993)年、豊田市平戸橋町の緑に囲まれたおよそ2万4,000坪の土地に男女共学の四年制大学「愛知みずほ大学」が開学しました。同大学は、時代が要求する「健康科学を基本とした人間科学に関する研究の推進と、豊かな人間性と幅広い教養、人間科学に関する専門的知識・技術を身につけた人材の養成」を目標とし設立されました。その目標は、科学的見識と保健衛生の知識涵養に重きを置く学園建学の趣旨を発展させたもので、現在のカレッジモットーである「健への探究」の礎となっています。設置されたのは、当時としては珍しかった人間科学部人間科学科で、「健康科学」・「行動科学」・「人間福祉」の3つの専攻を有しました。いずれの専攻も、「世界保健機関憲章」で定める「健康に関する原則」に即し、来るべき時代のキーワードとなる健康社会には欠かせない研究領域でした。



豊田
キャンパス





豊田
キャンパス



トピック④

名前の由来

現在、学園は愛知みずほ大学、愛知みずほ短期大学、愛知みずほ大学瑞穂高等学校の3校を有しています。それぞれの校名には「愛知みずほ」の名称が見られますが、大学開学当時は、短期大学が「瑞穂短期大学」、高等学校が「瑞穂高等学校」でした。気づかれたと思いますが、短大、高校とも大学が開学したことにより、後に名称変更が行われたのです。では、なぜ、大学は「瑞穂大学」として誕生しなかったのでしょうか。一説によると、大学設置申請の際に、文部省(現在の文部科学省)から、「どこにある大学であるかすぐに分かり、また、誰もが読みやすい名称であるように」とのアドバイスを受けたということです。高等学校の略称として「愛み大瑞穂(アイミダイミズホ)」が使われるなど、今ではすっかり定着した名称ですが、当初は戸惑いの声も聞かれました。

大学院設置

平成15(2003)年には、本学の教育研究を基盤として、人間科学に関する総合的・学際的な教育研究を推進し、豊かな知識と技術を身につけた個性ある高度の専門家・職業人の育成や社会貢献を目的とし、「愛知みずほ大学大学院」を設置しました。養護教諭や健康福祉関係の教員のほか、一般社会人が多く学ぶことから名古屋市瑞穂区にサテライトキャンパスを設け、昼夜開講制や長期履修制度を導入するなど社会人に対して広く門戸を開きました。標準修業年限は2年ですが、長期履修制度により3、4年かけて学位(修士)を取得する人も少なくありません。



授業風景



大学院サテライトキャンパス(名古屋市瑞穂区)



大学名古屋移転と各校連携



新校舎建設を知らせる本誌

DATA

名古屋移転「マチナカキャンパス」誕生

平成24(2012)年に名古屋キャンパスが開校。豊田に加えて名古屋にも学生を迎え入れることとなりました。そして、翌年の平成25(2013)年3月には高校の隣接地に大学・短大の合同校舎「1号館」が完成し、同年4月から

新校舎での授業が始まりました。豊田と名古屋の2キャンパス制は2年間続き、平成26(2014)年3月には豊田から名古屋への完全移転が完了しました。そして、大学は1号館と周辺の施設を含めた「マチナカキャンパス」として生まれ変わりました。



竣工記念セレモニーと内覧会



各校連携

大学・短大の合同校舎1号館の完成を機に大学・短大の単位互換制度が始まりました。また、同時期に高大の連携も本格的に始まり、その中核として夏休み期間を利用した夏季集中講座(「高大連携プログラム夏季集中講座」)が平成26年から始まりました。これは、高校2・3年の生徒が高校在籍中に大学・短大の授業を受け、その単位が正規の修得単位として認められるというものでした。この夏季集中講座を機に、その後、様々な連携事業が立ち上げられました。

現在、この連携は、「双方向型連携」を目指し、つながりを強めています。「双方向型連携」とは、単なる各校の学生、生徒、教職員の交流にとどまるのではなく、お互いが情報や成果を共有するという形です。このことで、綿密な教育や支援が可能になり、各校の「学びのつながり」や「連続した支援」の充実化が図られます。また、この連携に基づき、従来の大学・短大の教員が高校生を教えるプロジェクトに加え、大学・短大生が高校生を教えたり、高校の教員が大学・短大生を教えたりする機会の実現に向けての準備も始めています。



単位互換調印式(大学・短大)



教育連携調印書(大学・短大・高校)

トピック⑤
連携Pick Up



夏季集中講座(「高大連携プログラム夏季集中講座」)

瑞穂高校の2・3年生の希望者が夏休み期間に大学・短大の授業を受けます。成績に応じて単位修得が認められます。



短大ピアノレッスン



主に愛知みずほ短大の現代幼児教育学科への進学を希望する瑞穂高校の生徒を対象に実施。入学後、必要になる最低限のピアノの演奏技能習得を目指します。

教育連携講座



今年度は、瑞穂高校の普通科生活インフォメーションコースの3年生を対象に、短大の教員が授業を担当。高校の正規の時間割に組み込み、食物と保育について行いました。

産学連携インターンシップ



学園の大学生、短大生、高校生が外食産業でのインターンシップで商品開発等に携わり、就労に関する意識を高めます。

高校生アスリートのための測定会



愛知みずほ大学の健康スポーツコースの学生が瑞穂高校の運動部員の体力測定を行い、その結果をもとにスキル向上に関するアドバイスを行います。

Newspaper



INFO MIZUHO

開発商品が店舗販売（短期大学食物栄養専攻）

令和元年の11月に「和食処サガミ」で知られるサガミレストラン株式会社と愛知みずほ短期大学食物栄養専攻との協同企画により、コラボデザート商品開発を授業の一環として行いました。商品開発のコンセプトをはじめ企業担当者からの様々なアドバイスを参考に2年生が10チームに分かれ、コンペ形式で行いました。11月20日（水）には、商品企画のプレゼンテーションと試食会を行い、その結果、3チームの企画が店舗で販売される企画商品として選ばれました。それらの商品は令和2年2月から和食レストラン「サガミ中根店」（名古屋市瑞穂区）で約1か月間販売されます。

ガレット
ミルフィュー

イチゴのムース

販売される商品

いちごでいちみす
ケーキ

きらり☆ MIZUHO

全国大会での健闘に期待
（高等学校 卓球部・スケート部）

卓球部

第47回全国高等学校選抜卓球大会出場

卓球部が令和元年12月24日（火）から26日（木）に行われた第47回全国高等学校選抜卓球大会東海選考会で優勝しました。この結果、令和2年3月下旬に千葉県で開催される第47回全国高等学校選抜卓球大会（千葉ポートアリーナ）に出場することが決定しました。

東海選抜で優勝して
笑顔のメンバー

スケート部

令和元年度全国高等学校総合体育大会

第69回全国高等学校スケート競技選手権大会出場

令和2年1月22日（水）から26日（日）まで帯広市（帯広の森スポーツセンター）で開催されたインターハイのスケート競技（フィギュアスケート）に、スケート部の笠掛梨乃さん（3年 名古屋市立久方中学出身）、鬼頭まりあさん（2年 名古屋市立豊正中学出身）、堀見華那さん（2年 名古屋市立鎌倉台中学出身）の3名が出場し、女子団体で準優勝に輝きました。なお、個人でも笠掛さんが第6位に、鬼頭さんが第7位に入賞しました。

笠掛
さん

準優勝

堀見
さん鬼頭
さん

● 瑞 想 録 ●

— はじめの一步 — 「学園80年の歩み」あとがきに代えて

過去（歴史）を学ぶ意義の一つは、現在の「立ち位置」を把握することです。学園が、これからさらに歴史を築き上げていくためには、自らの「立ち位置」（過去から現在に至るまでの経緯）を確かめる必要があります。その作業は個人に当てはめてみればアイデンティティーの確認といえるでしょう。学園におけるアイデンティティーは、教育理念とも言えます。「健への探究」（大学）「健への教育」（短大）「健への志」（高校）と「健」を核に結ばれた学園の発展のために関係者一同、現在の「立ち位置」を確かめ、そこから未来に向けての「はじめの一步」を踏み出していきます。

転寝